

ぱれっと

2011
5月
No.141

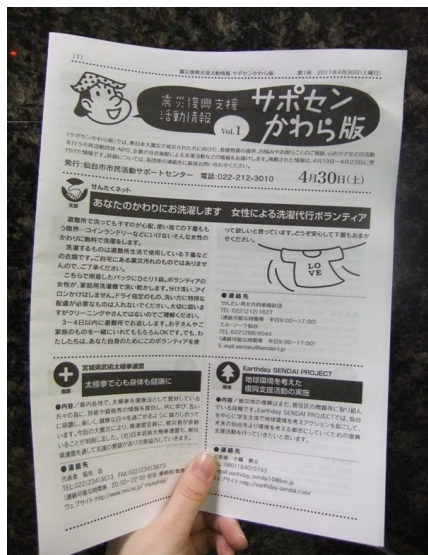
まだ＊これ 合併号

●目次

- P 2～4 動き出した仙台のNPO・市民活動
- P 5 サポセンの相談窓口から／街角から勇気を届ける
- P 6 復興支援活動でサポセンを利用した団体

ともに、前へ！仙台

東日本大震災 特別号②



▲復興支援活動を行う市民活動団体・NPOの情報を、被災された方にお届けするために「震災復興支援活動情報 サポセンかわら版」を発行します。

■ご利用案内■

H23年3月28日～9月30日

＜開館時間＞

平日 午前9時～午後10時
 日曜・祝日 午前9時～午後6時
 休館日 5月～8月 毎月最終水曜日
 9月～ 第2・第4水曜日

東日本大震災の被災者支援・復興支援のため、現在、多くの市民活動団体・NPOが支援活動を展開していますが、仙台、宮城、そして東北の一日も早い復興に向けて、より柔軟できめ細やかな支援活動を広げていく必要があります。市民活動サポートセンターは、現在、こうした市民活動団体・NPOなどによる復興支援活動のサポート拠点として運営を行っています。5月1日から、平日は午後10時まで開館し、ますます利用しやすくなりました。ぜひご利用ください。

～東日本大震災 その時～

動き出した仙台のNPO・市民活動

震災後も頻りに余震が続き、震災の被害が明らかになるほど被災者がおかれた状況はたいへん厳しいものです。そのなかで自らも被災しながら、市内のNPO・市民活動団体が支援活動を始めています。今回は、災害弱者の方々や避難所で生活する方々を支援しようと活動している団体をご紹介します。

●被災した障がい者を支援する

「CILたすけっと／被災地障がい者センターみやぎ」

障がい者

障がい者の地域生活をサポートする「CILたすけっと」が、仙台市内で被災障がい者への相談業務を本格的に開始したのは、地震発生から1週間後の3月18日でした。スタッフ自らも被災者でありながら事務所を開け、災害弱者といわれる障がい者のために、個別支援を始めたのです。相談窓口開設当初は1日30～40件の相談が寄せられたといえます。

ひとつ一つの相談に対応し続ける団体を全面的にバックアップしてくれたのは、阪神・淡路大震災を

教訓に生まれた「(特活)ゆめ風基金」でした。ゆめ風基金のサポートもあって3月31日には、宮城県内の障がい者団体が連携して「被災地障がい者センター

みやぎ」を設立しました。このセンターの活動内容は、避難所を中心とした被災障がい者の聞き取り調査と、物資提供やボランティア派遣などの具体的な支援です。

「行政では難しい個別支援をNPOとして担っていききたい」と事務局を務めるCILたすけっとの菊池さん。地域で障がい者とともに活動してきた実績を基に、県内や全国のネットワークを活かしながら、迅速かつ細やかな支援活動が、今も継続的に行われています。



▲事務所にて

被災地障がい者センターみやぎ

【代表者】及川 智

【連絡先】TEL 022-746-8012

FAX 022-248-6016

事務局開設時間 10:00-18:00

【E-mail】cil.busshi@gmail.com

●被災地の市民の食を支えたマルシェ

「せんだいファミリアマルシェ実行委員会」

在宅避難者

生産者と消費者をつなげる直売市「マルシェ・ジャポン センダイ」を定期的に開催している「せんだいファミリアマルシェ実行委員会」は、3月13日「東北大地震仙台救援本部」を立ち上げ、被災者救援活動を開始しました。流通が途絶え買い物が困難となった震災直後から、仙台市青葉区一番町の商店街ではこれまでどおり定期的

に市場(マルシェ)を開催。生産者やメンバー企業の協力を得て、新鮮な野菜等を直売し、市民の食生活を支えています。また、食料

が手に入りにくい被災者へ、炊き出しや救援物資提供も継続的に行なっています。これまで、石巻、気仙沼、南三陸、女川などの沿岸部に加えて、高齢化のすすむ仙台市内の団地でも行ってきました。

さらに、マルシェ会場に隣接した救援本部では、被災者へ直接食料や物資を提供しており、4月18日までにのべ1500名の方々が訪れました。

マルシェ・ジャポン センダイは今後も、被災者の支援、生産者の支援を大きな柱に、「食」を通じて救援活動を継続していく予定です。

*個人からの救援物資の受け付けは終了しました。

マルシェ・ジャポン センダイ

【会場】サンモール一番町商店街

【開催日】毎週 木・金・土・日曜日

【運営】せんだいファミリアマルシェ実行委員会



▲マルシェ・ジャポン センダイ

避難所

● **一人ひとりの話を聴く**
「仙台傾聴の会」

地震・津波の被害を受け避難所で不安で不自由な生活を強いられている方々も多くいます。人は相手に話すことで、心が軽くなったり浄化されたりすると言います。「仙台傾聴の会」では、震災後、宮城県医師会からの要請を受け、各避難所に出向いて傾聴ボランティアの活動をしています。これまで、仙台市宮城野区、青葉区、太白区、名取市、岩沼市の約10カ所の避難所で活動を実施してきたそうです。

代表の森山さんにお話しを伺いました。活動を始めたのが3月23日。最初はガソリン不足もあり、5～6人のメンバーがそれぞれ自宅の近くで歩いて



▲「おはなしをお聞きします」
傾聴活動の様子

行ける避難所に入り、主にお一人の方で声を掛けていきました。

「みなさん、被災の状況を話さずにはいられない様子で、聞いてくれてありがとうと涙を流す方もいます。眠れない人や子どもた

ちのことも心配ですね」

気がかりな方がいれば、避難所の責任者に伝え訪問する医療関係者につないでもらうこともあるそうです。「実際に津波が町を襲う様子を見た方には、見ているだけで何もできなかったという無力感があります。また、自分だけが助かってしまった、という罪悪感もあるそうです」そういった気持ちを引きずらないで欲しいと森山さんは言います。

日が経つにつれ、避難者の心配事も変わってきて、これからこそ心のケアが必要になります。今後は仮設住宅へも足を延ばして活動していきたいと思っているということでした。

仙台傾聴の会

【代表者】 森山英子

【連絡先】 TEL 090(6253)5640

FAX 022(343)9705

連絡可能な時間帯

水・日を除く毎日9時～19時

【E-mail】 moriyama-e@tulip.sannet.ne.jp

● **子どもたちを学習面からサポート**
「NPOアスイク」

震災によって学校を失ってしまったり、学校に通えない状況に置かれてしまった子どもたちがいます。「震災により教育面でハンデを負ってしまうことで、学習意欲や将来への希望を失う子どもを生み出さないこと」を目標に「NPOアスイク」は3月28日から活動を始めました。

具体的な活動内容は、教員志望、教育に関心の高い大学生などを学習サポーターとして避難所や被災地に派遣。小・中学生にできるだけマンツーマンに近いカタチで勉強を教え、学習する習慣、学習に対する意欲を失ってしまわないようにしています。



▲避難所の子どもたちと

これまでに若林区や多賀城市、亶理町などにサポーターを派遣し、子どもたちはもちろん親御さんたちにも喜ばれているとのこと。

また、仙台で「家庭教師・個別指導のアップル」を

避難所

展開する(株)セレクトイー、東京の教材会社である(株)光文書院などから教材の提供をうけたり、教員志望の学生で構成される学生団体「ALL東北教育フェスタ」のメンバーが学習サポーターとして活動に参加するなど、企業や他団体と連携して活動を展開しています。「活動を通して勉強そのものを楽しみを見出す子どもたちに出会えました。また、大学生と触れ合うことで避難所の中で張り詰めていた子どもたちの心をリラックスさせる効果もあったと思います」と代表の大橋さん。

学校再開までのつなぎ役としての活動は一区切りを迎えましたが、震災によって経済的に困窮する家庭や遺児などへのサポートは今後も必要です。学びたい気持ちをもつ子どもたちを支援し続けるために、「NPOアスイク」は、県内外のさまざまな組織と連携して、ボランティア団体から新しい教育インフラになることを目指して活動を継続していく予定です。

NPOアスイク

【代表者】 大橋雄介

【連絡先】 TEL 090(4554)9988

【E-mail】 asuiku0328@gmail.com

子ども

乳幼児親子を支える

「(特活)せんだいファミリーサポート・ネットワーク」「子育て支援グランマ」

震災後、子育て支援の分野で活動する団体は、子育てをしている人たちのニーズをくみ取り、とても迅速な対応で託児支援を始めました。

青葉区中央にある「のびすく仙台」青葉区中央にある「のびすく仙台」（仙台市指定管理者：特定非営利活動法人「せんだいファミリーサポート・ネットワーク」）は、地震後わずか4日という早さで3月15日に開館。乳幼児の一時預かりは19日から再開し、子どもたちを迎えました。子育てをしている皆さんにとって、震災後すぐに、安心して子どもを預けることができる環境ができたことは、とても心強かったに違いありません。

また「子育て支援グランマ」は、震災後、会場を通常託児を行っている市民活動サポートセンターからエル・ソーラ仙台に移して活動を始めています。震災当日は、サポートセンターで託児をしている真っ最中でした。「子育て支援グランマ」のみなさんは、地震におびえ泣いている子どもたちをしっかり抱きしめ、安全な場所まで避難。無事に子どもたちを守りきった責任感、子どもを預けた母親たちからの絶大な信頼につながりました。

■特定非営利活動法人

せんだいファミリーサポート・ネットワーク

TEL 022(714)2088

■子育て支援グランマ

TEL 090(5238)4544

女性

電話相談を開設

「ハーティ仙台(仙台女性への暴力防止センター)」

被災した女性の心の支援を行うため、仙台市は3月29日に「女性の悩み災害時緊急ダイヤル」を開設。日頃から女性のための電話相談を行っている「ハーティ仙台(仙台女性への暴力防止センター)」が協力し、悩みを抱えた女性たちの相談を受け付けました。

また、避難生活の中では、女性に対するドメスティック・バイオレンス(DV:配偶者や親しい間柄にあるパートナーから振るわれる暴力・虐待)の増加や性暴力が発生する可能性があるため、臨時の「女性への暴力電話相談」も開設されました。

全国的には、被災した女性を守るため、特定非営利活動法人「全国女性シェルターネット」などが中心となり24時間対応の「パープル・ホットライン」が開設されています。

被災地ではさまざまな悩みを抱え込まず、声を上げやすい環境を整えることが大切になってきます。

■女性の悩み災害時緊急ダイヤル

TEL 022(224)8702

受付時間 月～土 9:00～15:30

(祝・休日をのぞく)

■女性への暴力電話相談

TEL 022(268)5145

受付時間 毎週火曜日 14:00～19:00

■パープル・ホットライン

TEL 0120-941-826

受付時間 24時間

動物

被災動物の支援に奔走するNPO

「(特活)エーキューブ」



東日本大震災では、多くの動物も被災しました。仙台市が、市動物管理センターと(社)仙台市獣医師会及び動物愛護ボランティア団体等と協議し、「仙台市被災動物救護対策臨時本部」を設置したのが3月25日のことです。

上記対策本部の構成団体となっている(特活)エーキューブは、震災前から仙台市総合防災訓練でのペット同行避難や避難所運営の訓練などを、仙台市と協働で行って来ました。また、ペット同行避難に役立つ冊子を作成するなどの啓発活動にも力を入れました。その経験も活かし、震災後は、市動物管理センターや避難所での被災動物の保護活動、物資の募集・提供などに奔走して来られました。

理事の千葉浩二さんに伺いました。「ガソリン不足が深刻だった3月中は主に仙台市内の避難所を、そしてその後は七ヶ浜、多賀城、名取、岩沼、亘理、山元などの避難所を回り、ペットフードやケア

用品などの物資を配布しながら、飼養相談や環境整備、改善に努めました。また要請を受け石巻や気仙沼などにも駆けつけました。避難所では、津波からペットを助けた家族の話や、寒い夜に犬の体温で暖を取った、といった話を聞きました。物資を渡すだけでなく、話を聞くことで心の重荷がとれるのとは願っています。今後、仮設住宅に移られた後も引き続きのサポートを考えているそうです。

また、団体では、保護した動物のお世話をしてくれるボランティアを募集しています。詳しくは下記までお問い合わせください。

特定非営利活動法人エーキューブ

【理事長】 齋藤文江

【連絡先】 TEL 080-5224-6758(平日 9:00～17:00)

【E-mail】 info@a-cube-sendai.com

【ブログ】 <http://a-cube-sendai.sblo.jp/>

～サポセン相談窓口から～

震災後、市民活動サポートセンターには、行政情報に関する問い合わせや、個人でボランティア活動をしたいという方からのご相談などが多く寄せられました。また、被災地で炊き出しや物資支援などを行っている市民活動団体・NPOからのご相談もありました。

復興支援活動のサポート拠点として運営を始めた、3月28日から4月18日までに当センターに寄せられた問い合わせ・相談の内容をご紹介します。

表①(1)の問い合わせでは、震災後当センターを含めた多くの公共施設が使用できなくなったことから、貸室利用に関するものが67件と最も多く、活動の場について心配する声が多くありました。

また、表①(2)の活動相談は、計117件ありました。

表③は、復興支援活動に関する相談の内容内訳です。救援物資に関するご相談が最も多く、団体・企業からのもの、個人からのものに分けてお答えしていきました。

まだ少数ではありますが、1ヶ月を過ぎた頃から、メンバーの安否確認やライフラインの復旧を経て、電話相談、避難所での読み聞かせなど、被災者の心のケアをテーマとした復興支援

活動を展開する団体も見られるようになってきました。

また、NPO法人化相談4件を含む、6件のNPO運営相談にも対応しました。

①問合せ・相談の総件数	件
(1) サポセン貸室等、場の提供に関する問い合わせ	145
(2) 復興支援活動に関する相談	117
計(のべ)	262

②属性	件
市民活動団体	123
個人	56
行政・外郭	17
企業関連	10
マスコミ・議員	6
学校・学生	2
その他	11
計	225

③相談の内訳	件
救援物資	35
情報提供	12
寄付・募金	6
チャリティイベント	4
炊き出し	3
教育支援	3
読み聞かせ	2
慰問	2
調査	2
電話相談	1
カウンセリング	1
託児	1
買い物支援	1
がれき撤去	1
その他	37
計(のべ)	117

♪ 街角から勇気を届ける ♪

アート・インクルージョン実行委員会

今回の災害によって被災し、今なお大変な状況に置かれている方々を音楽で勇気づけようと活動しているNPOがあります。

「アート・インクルージョン」は、毎週土・日曜日に青葉区一番町の街角で『大震災復興チャリティコンサート』を開いています。これまでに宮城三女OG合唱団や仙台三桜高音楽部、合唱団Clairなど、宮城県内で活動する社会人や子どもたちによる合唱団が週替わりで出演しています。出演者自身も被災者だったりしますが「自分たちにでき

ることを」「歌を通じて役に立ちたい」という思いをこめて歌っています。コンサートでいただいた義捐金は被災者支援に使われるとのことです。

4月17日の出演者は、八軒中学校合唱部のみなさん。藤崎前で大勢の人が足をとめ、聞き入っていました。「ヤングマン」「青葉城恋唄」など幅広いレパートリーを披露し、「銀河鉄道999」では観客から自然と手拍子が沸き起こりました。元気な姿と優しい歌声に心が和むひと時でした。

●チャリティコンサートの予定●

4月2日～6月26日までの毎週土・日(6月5日を除く)

13:30～14:00 仙台三越前

14:30～15:00 フォーラス前

15:30～16:00 藤崎本館前

※詳しくはアート・インクルージョンのホームページ

<http://art-in.org/> をご覧ください



▲八軒中学校合唱部のみなさん

復興支援活動でサポセンを利用した団体

(4月4日～4月20日)

東日本大震災をうけ、復興支援活動に取り組むNPO・市民活動団体がサポセンをご利用いただく際は、事前に「復興支援活動団体利用受付シート」の提出をお願いしています。

このシートは、サポセン1階に掲示し、ブログにも受付順に掲載します。団体活動の詳細はそちらをご覧ください。

また、今後これらのNPO・市民活動団体の活動については、「震災復興支援活動情報 サポセンかわら版」、当センターブログなどにて紹介します。ぜひ、ご覧ください。

なお、サポセンでは復興支援活動に関するさまざまな相談にも対応いたしますので、窓口スタッフまでお声がけください。

- NO.18 「日本障害フォーラム(JDF)東日本大震災被災障害者総合支援本部みやぎ支援センター」
被災地の障がい者支援
- NO.19 「いのちのここの葉プロジェクト」
子どもたちのこころのケア、絵本の読み聞かせ
- NO.20 「三陸・宮城の海を放射能から守る仙台の会」
石巻地域での災害救援活動
- NO.21 「仙台傾聴の会」
被災地での傾聴ボランティア
- NO.22 「NPO法人WEL'S新木場」
被災地における障がい者支援とマッチング
- NO.23 「西公園プレーパークの会」
震災後の子どもたちの居場所づくりと心のケア
- NO.24 「仙台文の會」
被災地への図書贈呈
- NO.25 「公益財団法人 AFS日本協会 宮城支部」
被災した留学生へのサポート
- NO.26 「一般社団法人日本WEBデザイナーズ協会 宮城支部」
WEB関連の復興支援

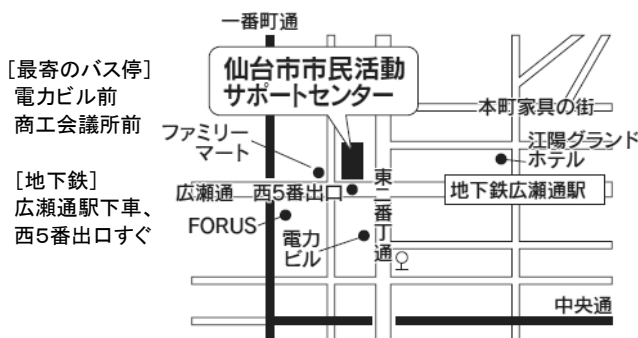
- NO.27 「東北『道の駅』連絡会」
被災した道の駅の復興支援
- NO.28 「公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」
子どもたちを支える「こどもひろば」の開催
- NO.29 「(株)ドン・キホーテ」
被災者支援無料法律相談コーナーの開設
- NO.30 「NPO法人科学心を育む会」
被災した子どもたちの心のケア
- NO.31 「NPO法人生活習慣改善センター」
身体的・精神的ケアと健康的な生活支援
- NO.32 「おかきプラス」
被災者への情報発信
- NO.33 「NPO Life&Desire 仙台」
被災者支援などの活動
- NO.34 「Life and Desire みやぎ」
被災者支援などの活動

■復興支援活動情報ブログ

<http://blog.canpan.info/fukkou/>



■案内図



■編集後記

◆震災から2ヶ月。自らも被災しながら、少しずつ体制を整えて復興支援の活動を行うNPO・市民活動団体の情報が、どんどん入り始めています。そうした情報を被災された方にしっかりと届けるため、「震災復興支援活動情報 サポセンかわら版」を10日に一度、避難所や市内公共施設等に配布しています。(スタッフ一同)

発行: 仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日: 2011年5月11日

編集: 特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人: 小松州子 菅野祥子 太田貴 葛西淳子 真壁さおり

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間: 2010年4月1日～2015年3月31日]